

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～各高等学校 同窓会からの意見・希望～

同窓会名： 富士見高等学校同窓会

質問項目	出された意見（まとめ）
①貴校の誇れる伝統 （優れている事例等） （人材育成の成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和2年創立、「地域振興100年の計は地域学校教育にあり」を建学の精神とし今年94周年。 ・校是は「自主・責任」「誠実・勤労」「敬愛・協同」 ・地域と連携した活動が盛んで、農業教育、普通教育を通じて、地域で活躍する人材の育成に努めてきた。 ・生徒数が多い時は、運動部のチーム競技においては、昭和46年にラグビー部が全国大会に出場した。 ・地域の伝統の継承、地域課題の解決や地域の活性化にも力を入れ、平成24年には、日本学校農業クラブ全国大会プロジェクト発表会「文化・生活の部」で優勝した。 ・同窓会として物心両面にわたり、教育活動を支え、平成30年にはグローバルGAP認証を全国の農業高校では6番目、県内の高校では初めて取得した。（水耕トマト・フルティカ）
②将来の諏訪地域を担う 人材を育てる貴校の役割 （育成すべき人物像） （目指すべき高校の姿） （目指すべき地域連携）	<ul style="list-style-type: none"> ・富士見高等学校「ふじみの森」ランドデザインのとおり ・「おいでよ 夢の種まきに！」というキャッチフレーズを今後も大切にしてほしい ・「自分」という大地にまいた夢の種を育てよう！という願いのもと「自己設計力の育成」に努めてほしい。 ・「地域」という大地にまいた夢の種を育てよう！という願いのもと「地方創生の担い手(の育成)」を目指してほしい。
③自由記載欄	<ul style="list-style-type: none"> ・旧第7通学区においては、第1期再編計画検討時の状況(中学校卒業生数の減少と地域外への流出)への対応は、第2期再編においては更に大きな課題となっている。 ・この課題への対応が棚上げのまま今日まで来たことを考えると、現在、旧第7通学区は大きな変革の時期に置かれており、旧第7通学区全体で対応する必要がある。 ・その大きな変革の方向としては、県教育委員会がまとめた「ウ. 第2期再編計画の策定に向けて」の「③再編計画の方向」で指摘している5項目が妥当であると考えられる。

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～各高等学校 同窓会からの意見・希望～

同窓会名： 長野県茅野高等学校同窓会

質問項目	出された意見（まとめ）
①貴校の誇れる伝統 （優れている事例等） （人材育成の成果）	<p>”生きる力を求め地域を担わんとここに学ぶ”が茅野校の教育理念です。 今、社会が求めている生きる力と地域存続を的確にとらえた教育理念の基、 地域に根差した教育を継続している。</p>
②将来の諏訪地域を担う 人材を育てる貴校の役割 （育成すべき人物像） （目指すべき高校の姿） （目指すべき地域連携）	<ol style="list-style-type: none"> 1、育成すべき人物像 多様化する生活環境の中で、様々な出来事に興味と感心を抱き自らの考えと行動で体験し、その体験を経験として生かせる人材の育成。 2、目指すべき高校の姿 基礎知識に加え将来につながる体験型の学習を進める。 3、目指す地域連携 小中高が同じ目標を設定し、高校生が中学生を指導し、中学生が小学生を指導する、子供同士の連携。（指導することで新たな学びが生まれる） 加えて、学校と家庭と地域が三位一体となり教育に関心を寄せる事。
③自由記載欄	<p>人が寄り添い関係する教育を進める中で、今回の新型コロナにより3密を避ける等、人との接し方が問われる苦しい生活を送ることとなった。 集団生活を行う社会に於いて通常では体験できない体験下であり集団生活の大切さを改めて感じたことと思う。 この体験を次の社会生活に活かし、保健や道徳教育などにつなげたい。</p> <p>コロナ禍で様々な会議が中止となり、決議も書面をもって行うなど、会議無しで事が進む体験をした。 会議のあり方を見つめなおす機会となったことに関心を持っています。</p> <p>高校再編について、諏訪地域は6市町村で構成されているが教育に壁はなく主役は子供たちであることを念頭に、地域の個性が生かせるような配置を基準に、子供たちに多様な学びの環境を提供する仕組みが好ましいと考えます。</p>

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～各高等学校 同窓会からの意見・希望～

同窓会名： 諏訪清陵高等学校同窓会

(※同窓会長個人の考え)

質問項目	出された意見(まとめ)
①貴校の誇れる伝統 (優れている事例等) (人材育成の成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・明治以来の産業構造の大変革の中で、社会の最先端で時代を切り開いてきた進取の気性 ・自分の信じる道を困難があっても突き進む気概【自反而縮雖千萬人吾往矣(自ら省みてなおくんば、千万人といえども我行かん)】を持った人材を育成してきたこと ・社会の第一線で活躍出来る人材を多く輩出してきたこと
②将来の諏訪地域を担う人材を育てる貴校の役割 (育成すべき人物像) (目指すべき高校の姿) (目指すべき地域連携)	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化とローカリゼーションのバランス、最適化が求められる、これからの時代にあって、それぞれの世界で活躍出来る人材を育成すること ・中高一貫教育の狙いである「～じっくり学び、深く考える～」深める学習をベースに社会の様々な分野で活躍出来る尖った人材を育成していくこと ・諏訪地域には中高一貫教育に基づく普通校2校と職業高校1校があるべき姿と考える。そして職業高校は高専方式の5年教育とし、ドイツのデュアルシステムを導入し、より実践的な技術を身につけさせる ・以上により、将来を見据えた小中学生やその親たちの期待に応えられる学校を目指す
③自由記載欄	<ul style="list-style-type: none"> ・高校だけの改革では限界があり、中途半端に終わってしまう 小学～中学～高校～大学の全体を通じた教育のあり方を抜本的に見直す時 先ずは、21世紀に求められる人物像を明確にすること ・大学は入学方式から卒業方式へ変え、高校～大学では特定分野で優れた人材について飛び級制度を制定・活用し、世界で通用する人材を育てていく ・大学の共通テストは残すが、各大学の入学テストは廃止し、緩やかなレベルは設けるが、原則、全て門戸開放、深く学んだ人材を評価する仕組みに変える

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～各高等学校 同窓会からの意見・希望～

同窓会名： 諏訪二葉高等学校同窓会

質問項目	出された意見（まとめ）
<p>①貴校の誇れる伝統 （優れている事例等） （人材育成の成果）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪二葉高校は、明治34年の諏訪補習女学校としての創設以来、県立諏訪高等女学校として、新制高校となった昭和28年からは女子高の諏訪二葉高校として、そして、昭和62年からは男女共学校として、長い歴史を持つ進学校である。現在までに国内外で経済、政治、教育、医療、芸術等の様々な分野で活躍する人材、社会に貢献する人材、そして地域を支える人材、特に多くの女性を輩出してきた。 ・諏訪二葉高校の教育目標は「自主・努力・感謝」であり、女学校、女子校、男女共学校と変わってきてはいるが、常に「自主」が大事にされてきた。即ち、いつの時代でも「性別を問わず、その個性を重んじ、個々の興味関心や特性を主体的に生かせる環境」が保障され、「誰もが自由闊達に高校生活を送ることができる」という伝統が根付いている。このことが前項の活躍する多くの人材を輩出してきたことの大きな要因であろう。
<p>②将来の諏訪地域を担う人材を育てる貴校の役割 （育成すべき人物像） （目指すべき高校の姿） （目指すべき地域連携）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前身が女子校である男女共学の進学校として、どこにいても、どのような仕事をしていても「性別にかかわらず、真に互いの特性や才能を認め、誰もがその力を遺憾なく発揮できる共存社会を築いていく先頭」に立って努力できる人材を育てたい。そのためには性別にとらわれない、生徒一人一人の個性を思い切り発揮できる環境を保障する高校であり続けてほしい。 ・故郷を愛する生徒を育てたい。そのためには自分が生まれ育っている地域を知る教育、特に地域の中での地域の人から具体的に学んだり共に活動したりする中で、問題意識を持てる生徒を育ててほしい。そして、その問題意識を持って地域の中で社会に貢献できる人間力や知力のある生徒を育ててほしい。また、日本や世界の中で活躍して、故郷の外から故郷を応援できる、高い学力を持つ生徒を育ててほしい。そのためには今まで以上に県内外の高校と伍して戦える高い学力を育成するための、普通科の高校として深い学びを保障してほしい。 ・普通科に学ぶ生徒がもっと自己の興味関心や特性を育てていけるように、商業科や工業科、農業科等の学習に興味を持ったとき、専門性を持つ高校に「短期留学、単位留学」できるような多様性のあるカリキュラムがあるとよい。
<p>③自由記載欄</p>	

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～各高等学校 同窓会からの意見・希望～

同窓会名： 諏訪実業高等学校同窓会

(※同窓会長個人の考え)

質問項目	出された意見(まとめ)
①貴校の誇れる伝統 (優れている事例等) (人材育成の成果)	<ul style="list-style-type: none"> 本校は商業科、会計情報科、服飾科の専門校として、また、諏訪地域で唯一の定時制課程を有し、本年度は創立100周年を迎えます。過去には珠算部や女子駅伝などでは常に県のトップにあり、生徒は在学中に各種検定資格を取得して、金融機関や商業関係に多くの優秀な人材を送り出してきました。
②将来の諏訪地域を担う 人材を育てる貴校の役割 (育成すべき人物像) (目指すべき高校の姿) (目指すべき地域連携)	<ul style="list-style-type: none"> 2016年に文部科学省より、スーパープロフェッショナルハイスクール(SPH)の指定を県下で初めて受けました。専門校として高度な知識と技能を身に付け、社会の第一線で活躍出来る専門的職業人を育成するという趣旨のもと、SPHの指定の3年間が終了してからも継続できるように100周年の記念事業として同窓会が支援をしていくところです。
③自由記載欄	<ul style="list-style-type: none"> 本校としても、近年は男子生徒が少なく、スポーツの部活でチームが組めない状態が続いている。活気のある学園生活を送るためには、ある程度の生徒数が必要だと思えます。

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～各高等学校 同窓会からの意見・希望～

同窓会名： 下諏訪向陽高等学校同窓会

質問項目	出された意見（まとめ）
①貴校の誇れる伝統 （優れている事例等） （人材育成の成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・下諏訪町の強い要望により昭和55年に新設され40年と、他校の伝統の半分程度の歴史のため、地域のリーダーとなる人材はこれから顕在化してくるものと思われませんが、自由な校風や落ち着いた雰囲気は、我が校が培ってきた伝統と思っています。 ・学習面や部活動等でも、本人のやる気次第で全国レベルの活躍が期待できる環境は特筆すべき点として強調できると思います。 ・下諏訪町の全面的なバックアップにより、地域に密着し、地域と共に歩みを進めて行ける事も特質できる環境ではないかと思えます。
②将来の諏訪地域を担う 人材を育てる貴校の役割 （育成すべき人物像） （目指すべき高校の姿） （目指すべき地域連携）	<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪地域を担う人材を育てるという観点は非常に重要な事と思いますが、広く社会に貢献できる人材の育成こそが重要ではないかと思えます。その延長線上に諏訪地域への貢献があると捉えるべきで、諏訪地域限定という考え方には賛同いたしかねます。 我が校は、過去もこれからも上記の観点から人材を育成していくと思います。
③自由記載欄	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化社会を迎え、現在の高校数を維持していく事は困難との認識は、全ての高校で共有していると思います。加えて、塩尻・松本地区や伊那・駒ヶ根地区の高校に進学も可能で、更に私立高校に通う生徒も増加している中で、通学区ごとで高校再編を議論しても、それは単純な削減と見られ「無くす事はまかりならん」となるのは必定だと思います。 ・県が何とか現状を維持する方向でご努力頂けていることは大変感謝しておりますが、現実問題として経済的に厳しくなってくるのは明らかで、その部分をもっとしっかり説明する必要があるのではないかと思います。（過去の説明ではその部分を意図的に曖昧にしている節を感じました。） ・コロナ禍の中で、全体の意見集約には制約があるので、一部役員の意見となりますが、ゼロベースで統廃合をするのなら、それは少なくとも50年の計があつての事と認識し、仮に我が校が廃止されても、それは将来を見越し、今の子供たちが親世代になった時の負担軽減、そして、学びの世代には人と人との繋がりをしっかり学べる機会を確保するためと理解する土壌は形成されつつあるという意見もありました。 ・「あの高校は残し、あの高校はこの高校と統合させ、あの高校は廃止する」ではなく、一旦全て解体し、適正な高校数（教育機会を奪ってしまわない最低限必要な）を決め、新たに特色を持たせ名称も変更する。インフラは既存を最大限利用する、といった手法を採らない限り絶対にまとまらないという意見もありました。 ・様々な意見に共通していたのは「今までではなく、これからをどうする」という認識で意見交換をした点です。 ・わずかな伝統でも自分たちが一から築いてきたものなので、ある意味思い入れが強くなるのが当然と言えば当然ですが、現役世代だからこそ様々な選択肢を考えられるメリットもあるのではないかと思った次第です。 ・この協議会に同窓会が含まれない理由も理解できますし、含まれない事に疑問が無いわけではないのですが、意見を文書にて提出させて頂ける機会を設けて頂いたことに感謝申し上げます。

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～各高等学校 同窓会からの意見・希望～

同窓会名： 長野県岡谷南高等学校同窓会

質問項目	出された意見（まとめ）
①貴校の誇れる伝統 （優れている事例等） （人材育成の成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・当校は「文武両道」を校風にもち、下記のような成果が伝統的な取組の結果として挙げられる。 ①地元経済・文化・行政各界への多くの人材の輩出 ②地域のみならず世界に視野を広げることができる人材の輩出 ③文化部門における多くの活躍（例：著名な音楽家・書道家の輩出、放送部の連続全国大会出場等） ④運動部門における多々の活躍（例：スケート・漕艇部門における多くのオリンピック出場選手の輩出、スケート部門におけるジュニアワールドカップ出場及び優勝、漕艇部の高校総体出場及び優勝等） ・加えて、当校卒業生によるネットワーク・連携・母校愛は他校に負けないものである。（例：東日本大震災時における卒業生同志の支援活動、コロナ禍における卒業生の母校への支援 等）
②将来の諏訪地域を担う 人材を育てる貴校の役割 （育成すべき人物像） （目指すべき高校の姿） （目指すべき地域連携）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への貢献のみならず世界に広く視野を広げることができる人材の育成 ・諏訪地域の発展のため、地域内連携のみならず他地域との連携が積極的に行える人材の育成 ・今後の地域が抱える課題に対して、積極的に取組み解決する能力をもちうる人材の育成
③自由記載欄	

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～各高等学校 同窓会からの意見・希望～

同窓会名： 長野県岡谷東高等学校同窓会

質問項目	出された意見（まとめ）
①貴校の誇れる伝統 （優れている事例等） （人材育成の成果）	<p>岡谷東高等学校は令和4年に創立110周年を迎える全日制普通科高校です。昭和29年当時、女子高だった本校は、3本ライン（空・湖・青春の青色）が特徴的な制服を制定し、以来使用しています。この制服にあこがれ入学する生徒が現在も多くいます。</p> <p>諏訪地方は、製糸業から精密業に移行しましたが、古くから職業婦人が多く、地域の担い手、またそれを支える保育士などの専門職を目指す生徒が多くなりました。伝統的に地域のボランティア活動などにも積極的に参加しています。</p> <p>部活動も活発で、古くは東京オリンピック・バレーボール出場の渋木綾乃をはじめ、スケートの酒井裕唯・上條有司・田中千景などが冬季オリンピックに出場しています。また、宮原麗子・野村千春(洋画家)林郁(作家)を輩出。岡谷市の観光大使でもある市川笑野(歌舞伎役者)も活躍しています。</p>
②将来の諏訪地域を担う 人材を育てる貴校の役割 （育成すべき人物像） （目指すべき高校の姿） （目指すべき地域連携）	<p>1年次は全員共通科目を履修します。2年次以降は「健康スポーツ」と「教養フロンティア」の2コースに分かれ学びます。</p> <p>「健康スポーツコース」は、体育実技と福祉関係の専門科目を学ぶことができるコースです。様々な分野のスポーツの実習や、福祉施設での実習を通して、諏訪地方の福祉の担い手となる人材の育成に努めています。松本大学人間健康学部と高大連携推進事業すすめています。「教養フロンティアコース」は、基本的な知識と教養を身につけ、社会人として活躍できる人材の育成に努めています。信州豊南短期大学と連携し、専門的な学習を深めています。</p> <p>就職希望生徒の多くが地元企業に就き、進学者の半数は自宅から通学可能な学校へ進学しています。卒業後も地元とつながりのある生徒が多いことが特徴です。</p>
③自由記載欄	<p>これからの少子化の現状を考えた時、岡谷東高校同窓会としては、岡谷東高校が今のままの存続はできなかつたとしても、募集停止・廃校となることだけは、避けたいと考えます。</p> <p>現在の岡谷東高校については、在校生からは「小規模校の良さもあり、先生方との距離が近く、親身になって相談に乗ってもらえる」などの話も聞きます。</p> <p>他の地域からも注目されるような魅力ある学びができる県立の高等学校が、この岡谷にできたら、今以上に若者が集まり、地域も活性化するのではないのでしょうか。</p>

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～各高等学校 同窓会からの意見・希望～

同窓会名：一般社団法人 岡谷工業高等学校同窓会

質問項目	出された意見（まとめ）
①貴校の誇れる伝統 （優れている事例等） （人材育成の成果）	<p>本校は明治45年(1912)に隆盛を極めていた製糸業の技術者を養成するため平野村(現岡谷市)が開校してから、令和3年(2021)に創立110周年を迎える。この間、一貫して『ものづくり』のための教育を柱とし、諏訪圏域はもとより日本の底辺を支える、技術者の養成に努めてきた。長野県内の工業高校の中では、もともと伝統がある。また、『技術者たる前に人間であれ』の校是を基に人間教育にも力点を置いている。部活動も盛んで甲子園準優勝の硬式野球部、全国制覇10回のバレーボール部、花園30回出場のラグビーフットボール部、全国制覇6回を数えるスケート部のほか、各運動部の活動を通じ『全人教育』を進めている。最近ではロボットコンテスト、ものづくり全国大会等へも出場を果たしている。</p>
②将来の諏訪地域を担う 人材を育てる貴校の役割 （育成すべき人物像） （目指すべき高校の姿） （目指すべき地域連携）	<p>諏訪地域は日本の『ものづくり』産業の集積地である。その中で、唯一の工業高校であり、今後も地元企業からの「技術者養成」への期待は大きく、ここ数年は「就職率100%」を達成している。今後、社会はよりAI化が進んで行く。目先の人材育成はもちろん、将来を見越した製造業の技術者を育てる必要がある。さらに現在、製造現場で自動化、機械化では対応できない「匠の技」を持つ職人的な人材育成が重要となっており、現場の声を反映した教育が望まれる。高等教育としての「高大連携」も課題である。伝統の部活動による見えない教育の重要。</p>
③自由記載欄	<p>少子化には歯止めがかからない状況で、学校再編は必要不可欠な課題である。</p> <p>圏域で将来像を見据えていくことは重要であるが、どうしても「伝統高校」といった自負、「進学高校」「職業高校」という色分けで見られがちである。市町村や圏域として、それぞれの将来像を示し、その中での高校の位置付けがどうあるべきか—を考えていく必要がある。また、普通高校、職業高校を一緒くたに考えるのではなく、圏域を超えた在り方を考えることも重要であろう。</p>